

オルトフォンジャパンよりのお知らせ

Kailas-b2 Vacuum tube integrated stereo amplifier

発売：平成 23 年 5 月予定

半世紀前の真空管アンプ製造技術が
" Kailas b2 " として甦えりました。



1960年製オルトフォンの真空管式 HiFi stereo アンプ。パネルはアルミダイキャスト製の斬新なデザイン。往時のヨーロッパで一世を風靡したモデルです。

- * : オルトフォンの半世紀前の真空管式アンプ技術が新しく甦がえりました
- * : 日本の匠達の木工技術で木組みパネルを作りました
- * : Ortofon/Kailas b2 独自の優しいフォルムの真空管保護ネット
- * : Ortofon/Kailas b2 用の大型の電源トランス、出力トランス
- * : Phono入力(MM)端子付き



アナログの諧調

私達の生きている時間や空間は圧縮も解凍もできません。

デジタル技術の中で作り出される音楽は最上の部分のみを継ぎはぎして合成されます。失敗のない自然界に存在しない音作りになって来ました。手作りで紡ぎ合わされた音楽家達の魂の諧調に想いを馳せたいものです。私達も音楽家の曲ごとの時間に同調してゆっくりと曲に耳を傾けてみたいものです。短い人生の中でも最良の時間を楽しむことが出来ると思います。

音楽は時代と共に変わって行きます。自然の畏怖に対する心の慄き、神への祈り、賛美歌、などが音楽を発展させて来ました。 歌曲のメロディーの楽しさ、歌詞の行間を詠む心の余裕よりもリズムを主張する音楽が主流になってきました。圧縮、解凍で繰り返された音作りでは、その隙間を読む事も不可能になり不定愁訴的な時間が焙り出されてきます。

然し変わらないのはどの音楽も歌詞も空気を媒体としてアナログの振動を鼓膜に伝え、鼓膜もアナログ振動で脳に刺激を与えます。野や山を抜ける風の音、鳥の声、草叢にすだく虫の音、小川のせせらぎの音の調べも全てアナログです。癒しの時間を与えてくれます。

オルトフォンはアナログの音を作り続けて100年になります。LPレコード盤に刻まれた音溝の幅は僅か0.05mmです。その溝の左右の凹凸の振動を0.3mV (3/10,000 V)の電圧に変換し、10Hz - 80,000Hz (-2dB)の極めて平坦な音を再生する技術をもっています。

1960年には真空管のステレオアンプを作り、そのデザインと音質は一世を風靡致しました。

2011年には再び "Kailas b2"として真空管のステレオアンプをお求め易い価格で提供したく思います。木質パネルの暖かさ、真空管の仄かな明るさの中で緩やかに歌曲が流れがアナログの心ゆくまで音を紡ぎ出します。

*：オルトフォンの真空管アンプ "Kailas b2" のパネルは北米産の楓材の最高級品turip woodを採用し落ち着いた雰囲気と気品を漂よわせております。これは日本の匠達の仕事です。

この楓材の仲間はベルサイユ宮殿内の家具に使用されている貴重な素材です。

*：真空管の中に流れる仄かな明るさは優しい音調のシンボルです。

*：真空管は電球と同じでフィラメント等が消耗します。不良になった時は販売店でオルトフォンの真空管か同等品をお求め下さい。真空管の欧州番号とアメリカ番号は異なりますが世界で同じ規格で製造されています。

Ortofon Kailasb2	V1, V2, V3, V4	V5, V6	V 7
使用真空管	6BQ5 x 4	12AU7	12AX7

入力インピーダンス	> 100 (RCA)	入力感度	100mV ~ 600mV
出力インピーダンス	4 - 6	S/N 比	>87dB (hum noise < 3mV)
定格出力	12 W x 2	チャンネルバランス	< 1dB 20Hz-20kHz (Max. Vr)
最大出力	16 w x 2	チャンネルセパレーション	>65dB 20~ 20kHz
ダンピングファクター	> 3	電 源	AC100V +/- 5 %, 50/60 Hz
周波数特性	20Hz ~ 20 kHz -2dB	サイズ (mm)	285 (W) x220 (D) x 165(H)
T.H.D.	< 1% 20Hz ~ 20kHz (output)		ツマミ、ターミナル長を除く
ゲイン	28 dB	重 さ (k g)	8 kg